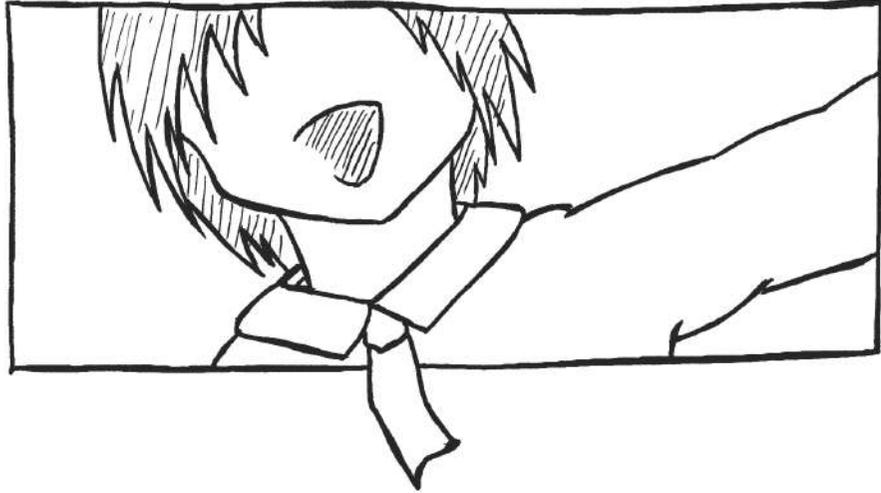


「盗賊団なんてやめて、  
これからは正直に生きよう」

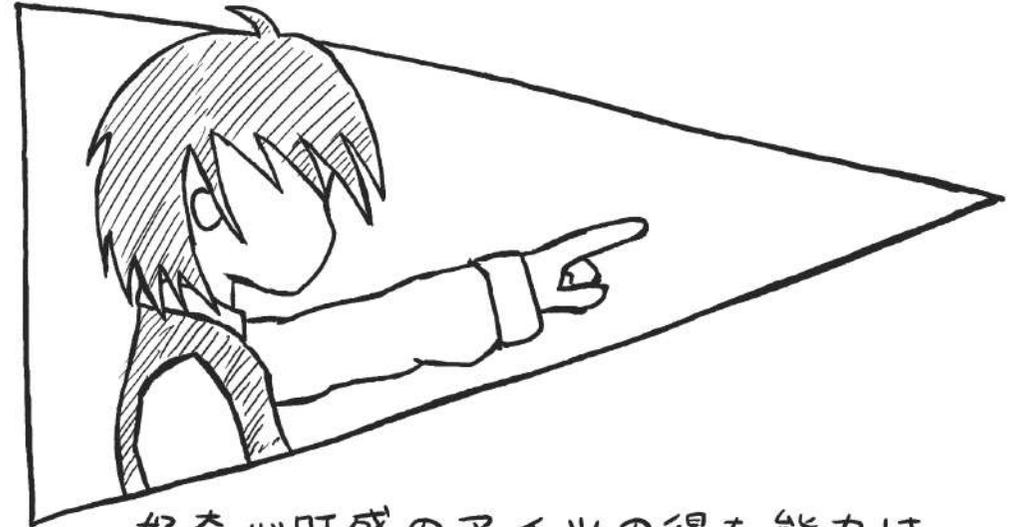


アイツがそう言って、  
僕たちは正直者になった。



——本当にこれでよかったんだろうか。  
刺激的な生活が永遠に続くと思っていた。  
でも、みんな変わって行ってしまった。  
だから、僕は……。

どうやらこの楽園にいると  
不思議な能力を得るらしい。  
「向こうに素敵な何かがあるみたいだ」

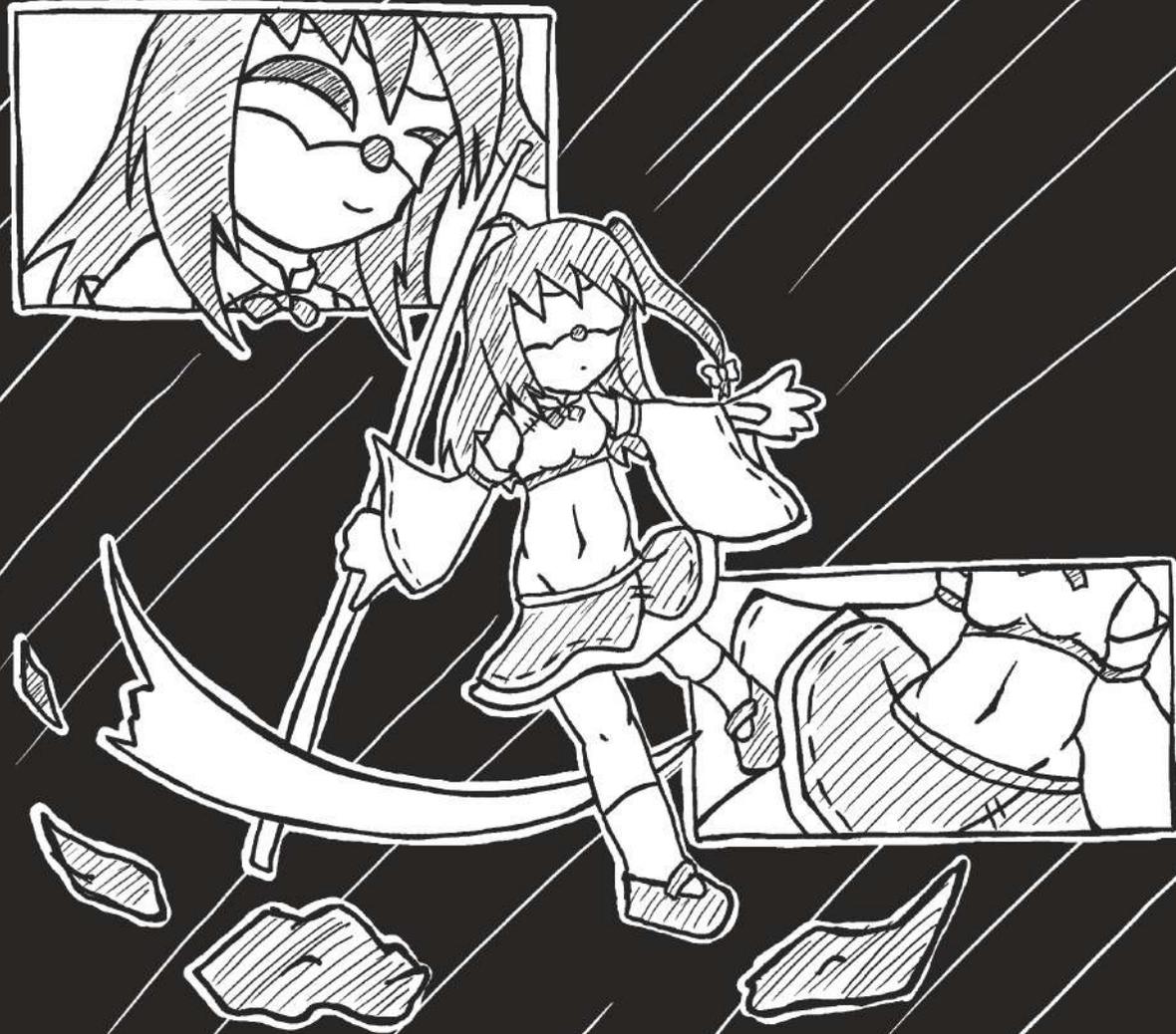


好奇心旺盛のアイツの得た能力は、  
きっと千里眼だ。



抜け駆けは許せない。

雨の降るポロポロの神社で  
紅と白の二色のピエロが踊っていた。



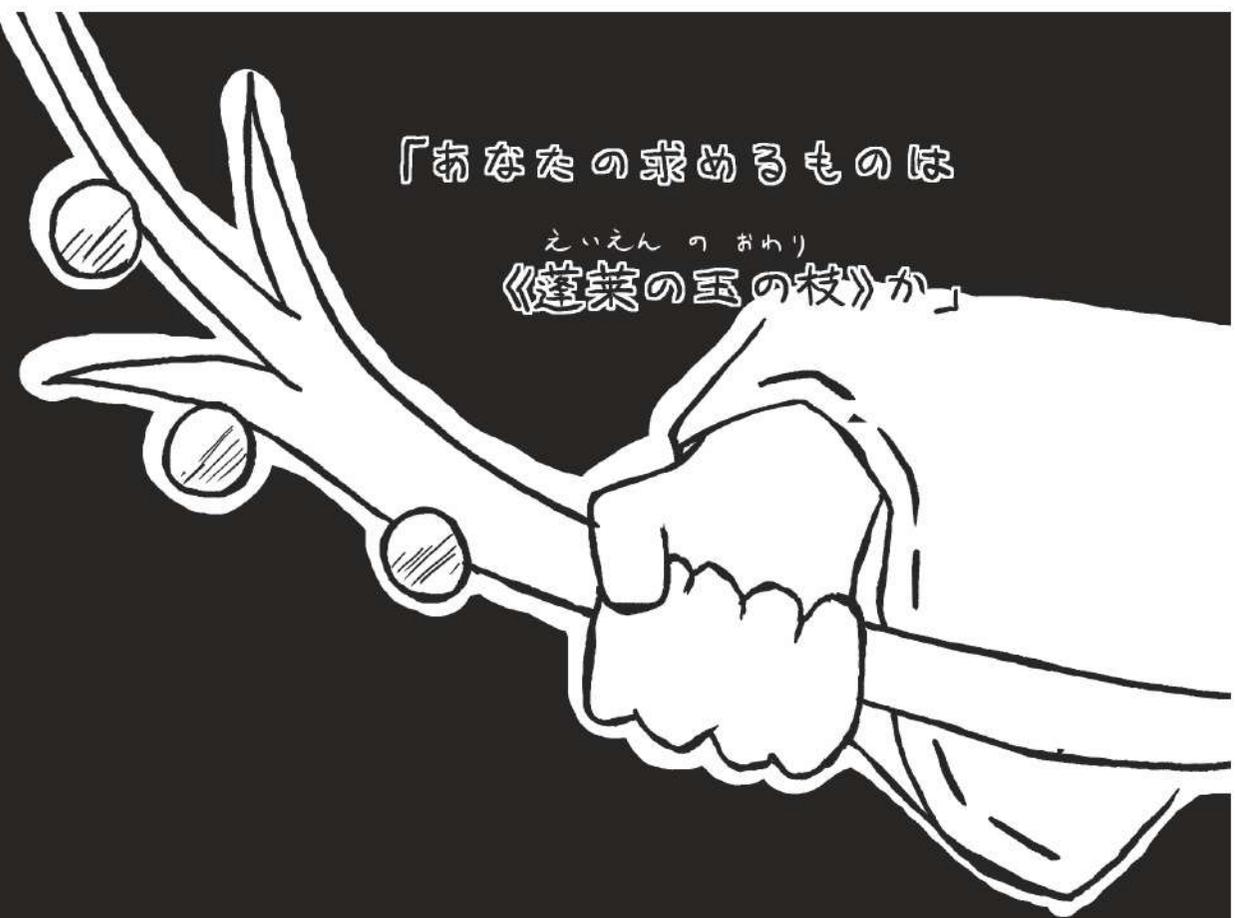
無意識に僕は祈っていた。



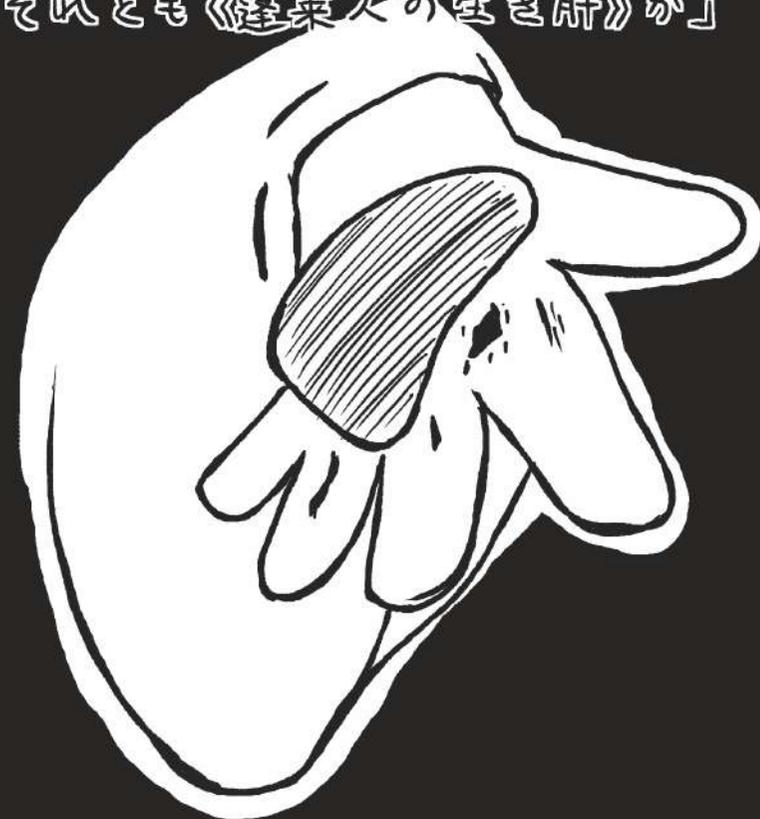
5

「あなたの求めるものは

えいえんのおわり  
《蓬莱の玉の枝》か」

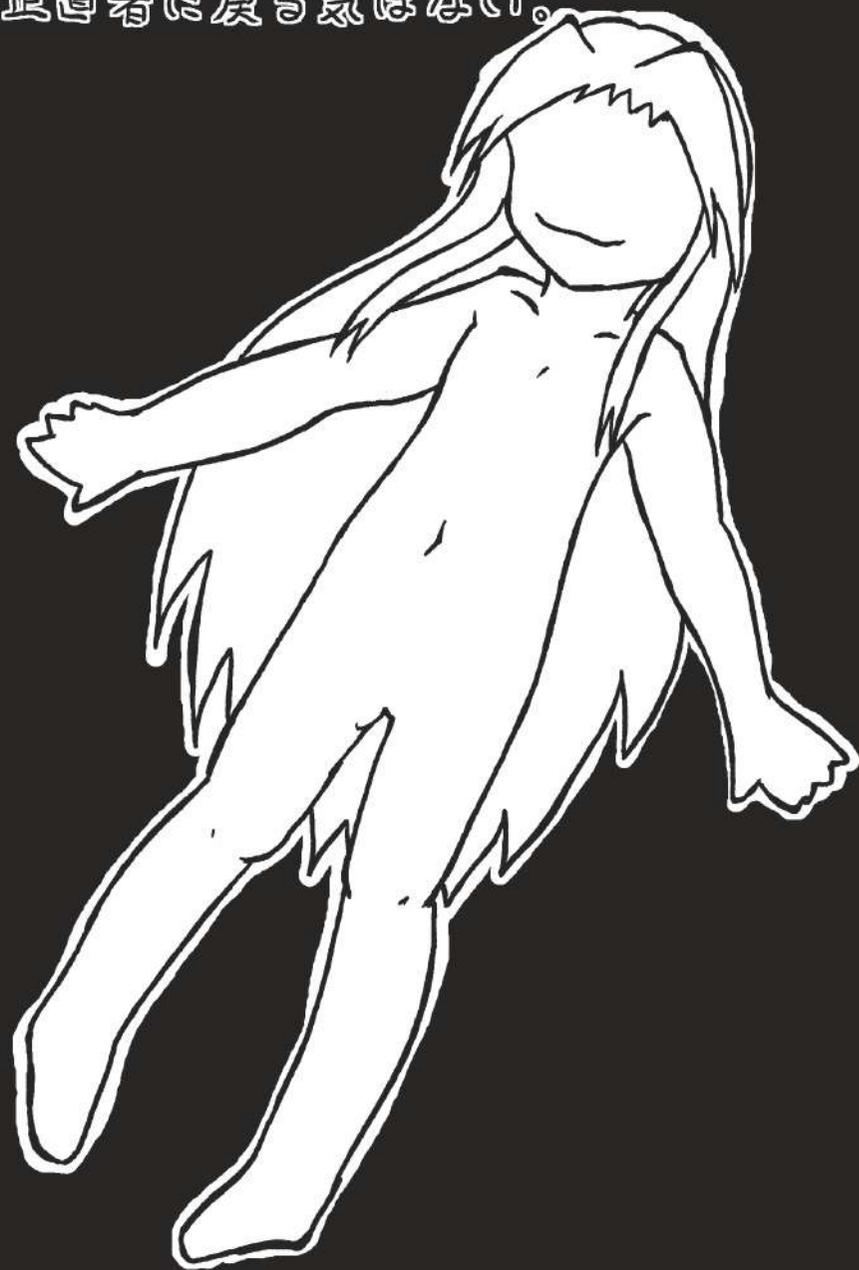


えいえんのほじまり  
「それとも《蓬莱人の生き肝》か」



6

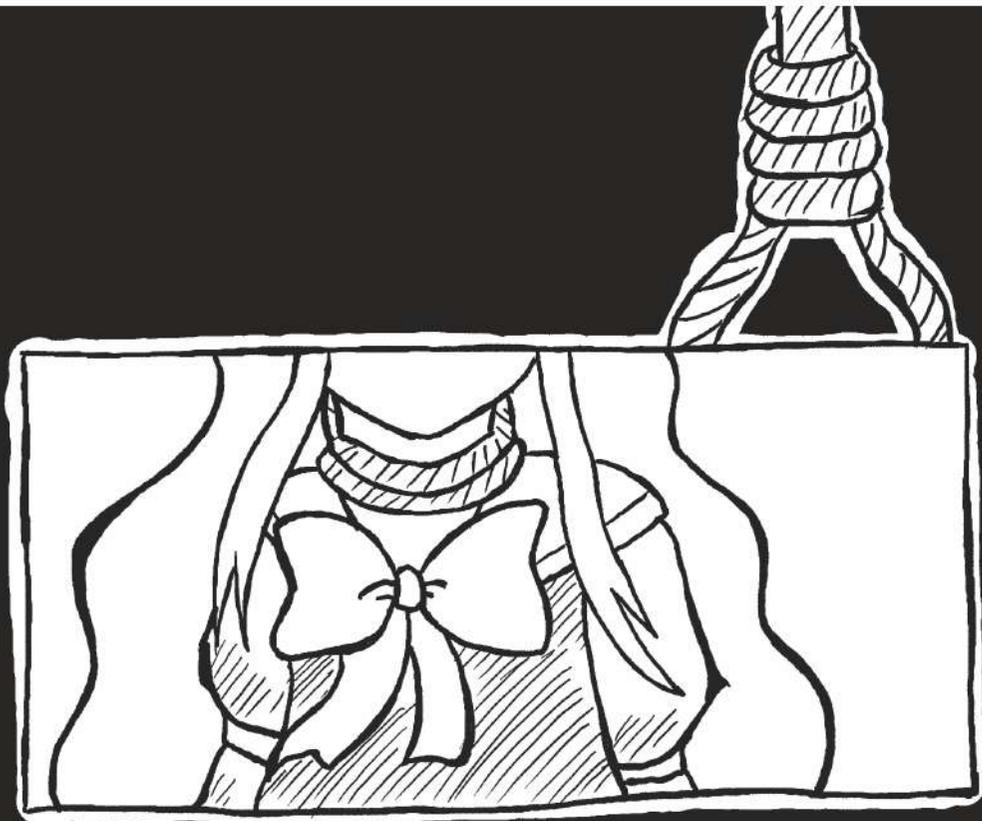
僕は迷わず、人間をやめた。  
もう正直者に戻る気はない。



この力があれば、誰も  
僕の、僕たちの邪魔はできないだろう。  
僕は刺激的な毎日を続けることができ、  
臆病なアイツは平穏な毎日を続けられる。

7

8



——間に合わなかった。

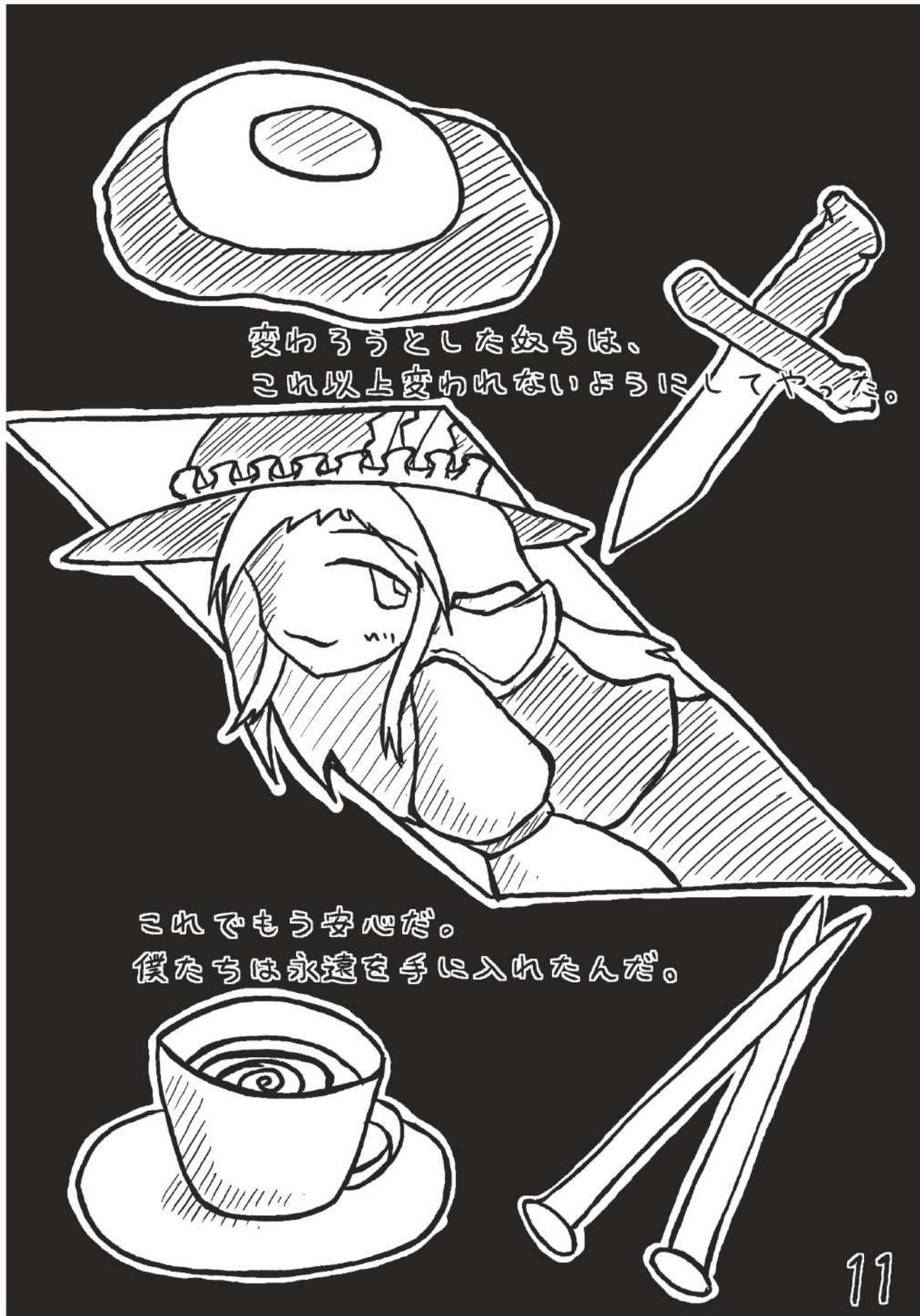


9



もうキミを  
独りぼっちにはほしくない。  
ずっと一緒にいよう。

10



# 奥付

題名  
最も美しい蓬莱伝説

発行日  
2021年07月11日

著者  
神依レヲ

サークル  
ぎんのしずく

連絡先  
<https://yuki.kitune.info/>

# 奥付

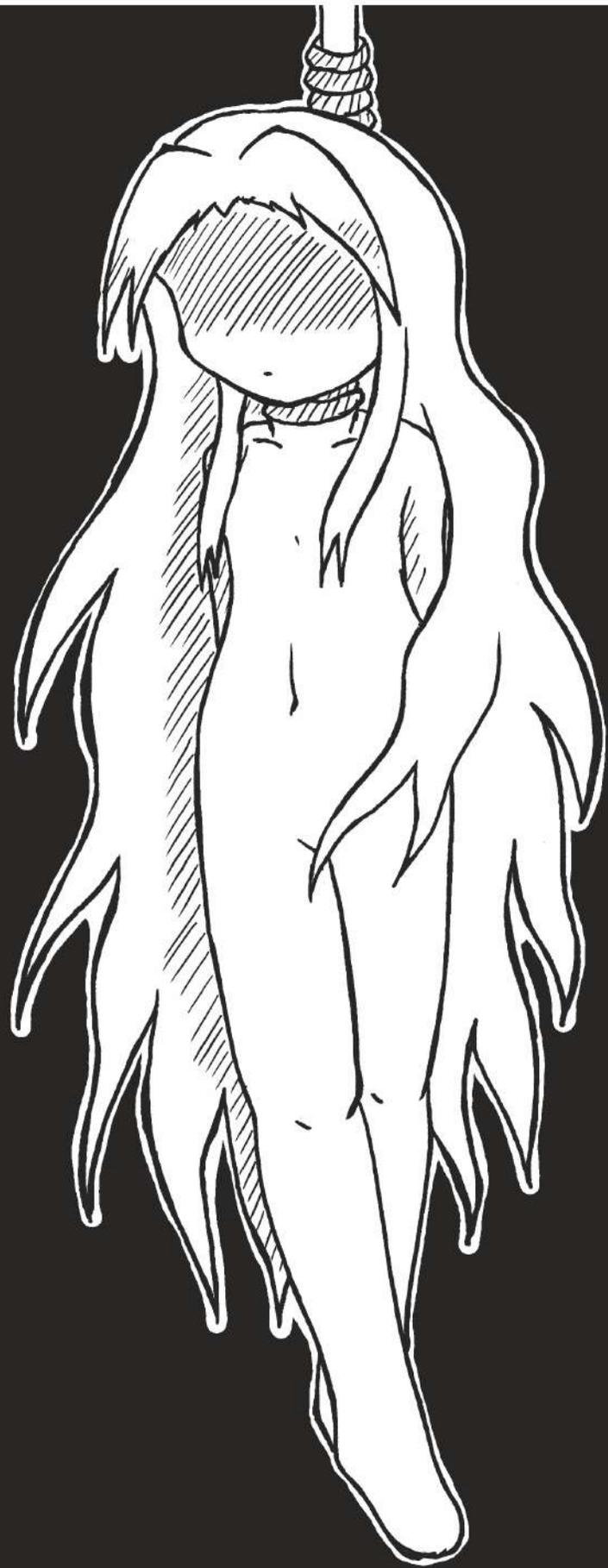
題名  
最も臆病な蓬莱伝説

発行日  
2021年07月11日

著者  
神依レヲ

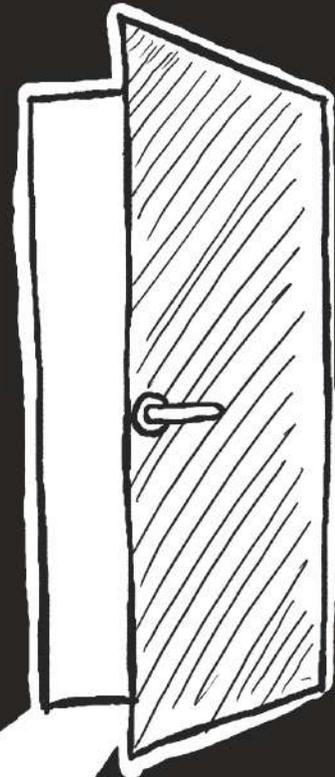
サークル  
ぎんのしずく

連絡先  
<https://yuki.kitune.info/>



今度こそ、二度と体が地面に着くことは無かった。

十二

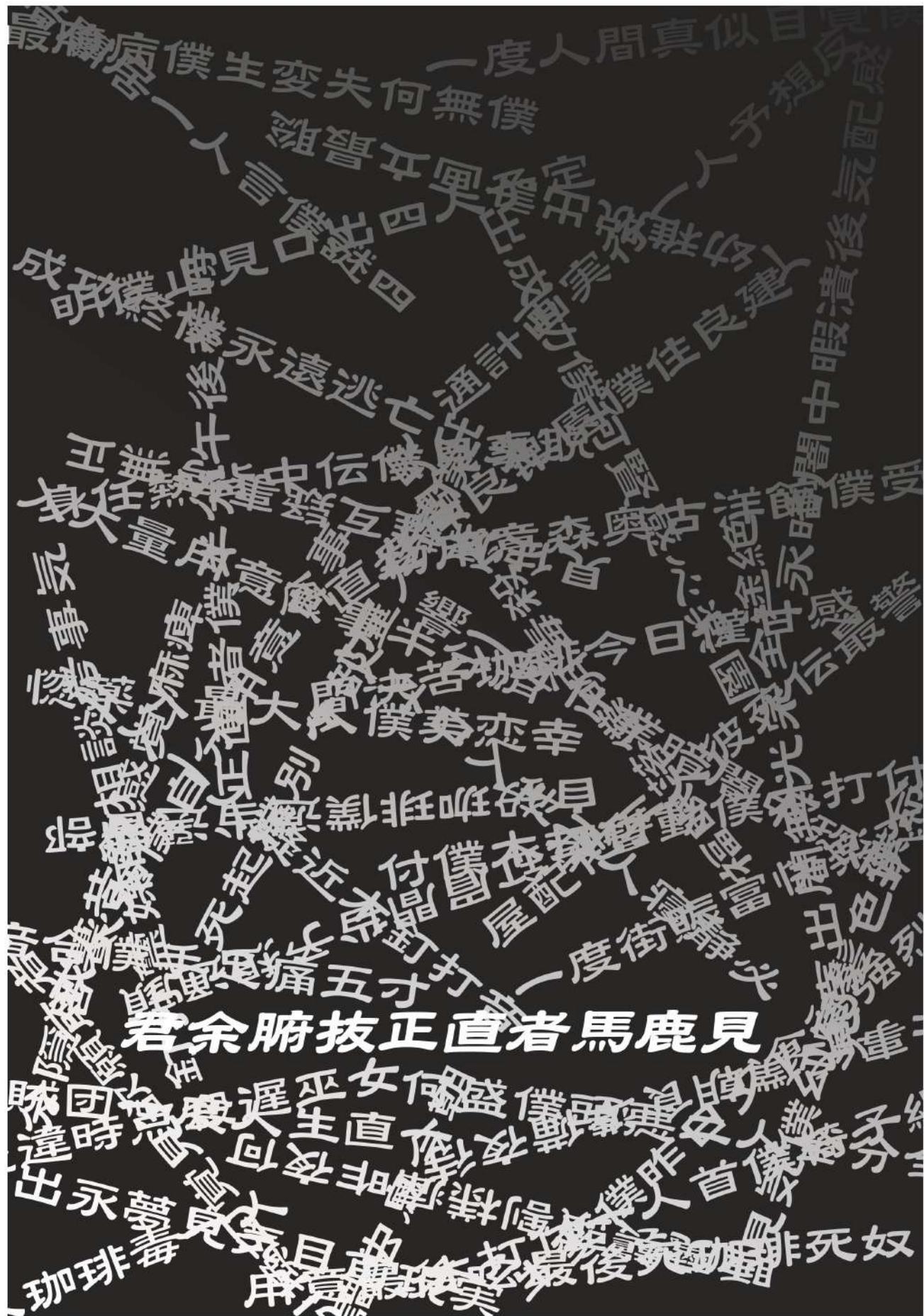


十一

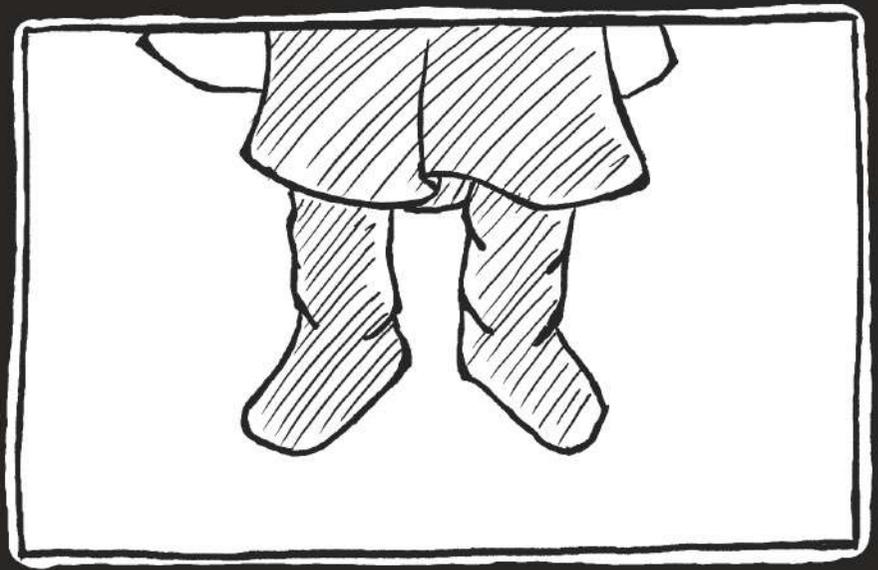
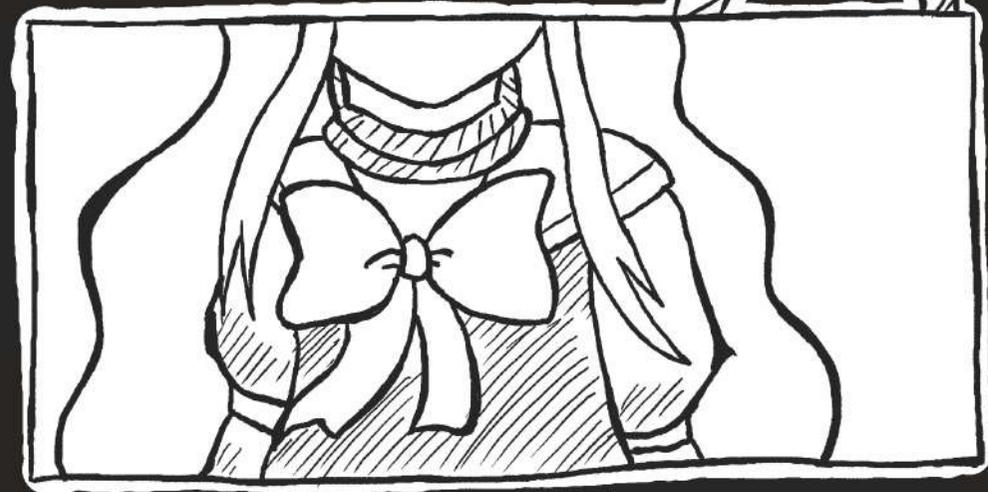


頭が痛い。  
永い夢でも見ていたのか、  
様々な想いの欠片が頭をよぎる。  
もうほとんど思い出せないけど。  
まあ、悪い夢は忘れてしまおう。  
あの扉の向こうで  
本当の楽園が僕を待っている。

目が覚めた。  
やっぱり、あそこは楽園ではなかった。  
そういうことなんだろう。



——もし次に  
目覚めることがあれば  
。。。。。



そのころが  
僕の望む樂園で  
ありますように。

みんな嘘つきだった。  
何か正直者だ。

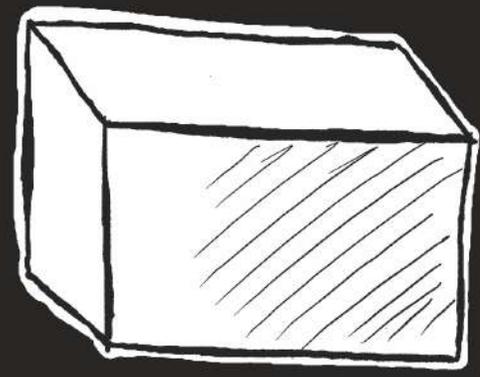
言っていることと思っ  
ていることかまるで違  
っている。



僕は息が切れるまで走った。

五

まだここは楽園ではないのか。  
それとも、この程度のものなのだろうか。  
どちらにせよ、もうここには居られない。



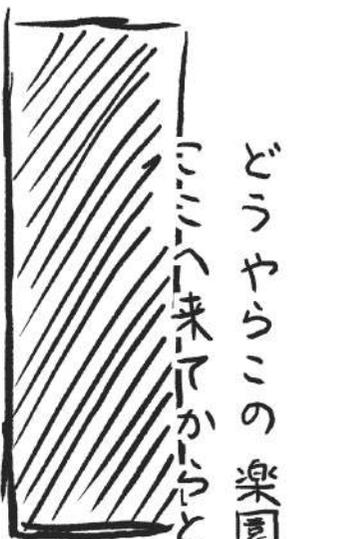
六



僕たちは楽園へ迷い込んだ。  
ここならば、こんな僕でも穏やかに暮らせる。

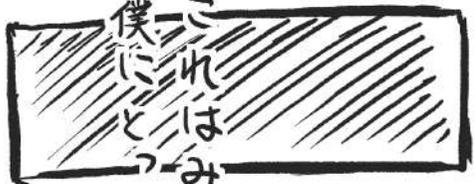
……そう思っていたのに。

三



どうやらこの楽園にいると不思議な能力を得るらしい。  
……さへ来たからと……うもの、いろんな想いや記憶が流れ込んでくる。

四



きっとこれはみんなのものなんだろう。  
臆病な僕にとって、ある意味相応しい能力じゃないか。

